

議長（村田 芳三君） 30番佐藤妙子さんの質問を終わります。

次に、16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 今期は、できるだけ地に足のついた発言をしまして、建設的な議論をさせていただきたいなと思っておりますので、まず4年間どうぞよろしく願いいたします。

〔「頑張り」と呼ぶ者あり〕

はい、ありがとうございます。

まず、雇用問題についてから御質問差し上げます。たくさんの方が質問されましたので、お聞きしたかったのは、震災後盛岡市の雇用状況についての動向を知りたかったのです。それで、有効求人倍率を震災のころから経緯を追って御報告いただきたいと。

あと、できるのであれば、観光、流通、製造業など業種別に有効求人倍率がわかりましたら教えていただきたいのですが、午前中の鈴木一夫議員への答弁と同じお答えでしたら詳細は要りません。同じであるというふうにお答えいただければいいんですが、違うようでしたらお教えてください。

商工観光部長（大志田和彦君） 議長。

議長（村田 芳三君） 大志田商工観光部長。

商工観光部長（大志田和彦君） お答えいたします。

有効求人倍率の震災以降の状況ということでございますが、3月には0.53となっております。直後影響が出てまいります4月、これが0.42、5月が0.40、6月が0.46、7月が0.52、8月、これが最新の数字となりますが、0.59という状況になってございます。

それから、2点目の産業の現況ということですが、基本的にはさきに答弁した内容ということになりますが、観光産業の分野ということのみちょっとお答えをさせていただきたいと思えます。市への観光客の入り込み数ということにつきましては、各報道等にもございますとおり、震災の影響ということで5月までは減少傾向という状況にございました。6月以降で見ますと、前年同月を上回ってきているという状況にはございます。いずれ市内にたくさんの方が入ってきていただいているなというぐあいには見ておるわけですが、このいわゆる観光客入り込み数という人数の中には、当然に被災地へのボランティア、あるいはお見舞いの方というのが相当数含まれているんだろうなというぐあいに見ております。そういった意味からは、観光については引き続きいろんな形での誘客活動が必要だろうというぐあいに存じております。

その他、卸売業の状況、運送業の状況につきましては、議員のほうから同じであればというお話でしたので、一応同じ状況でございます。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） ありがとうございます。

2月わかりますか、恐縮ですが、有効求人倍率。先ほどのお話ですと、震災前の状況とほぼ同じところまで回復ということだったんですが、もしことしの2月の有効求人倍率わかりましたらお教えいただけませんか。

商工観光部長（大志田和彦君） 議長。

議長（村田 芳三君） 大志田商工観光部長。

商工観光部長（大志田和彦君） お答えいたします。

2月につきましては0.56となっております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） ありがとうございます。

次に、緊急雇用事業についてちょっとお聞きしたいんですが、緊急雇用事業と書いてしまったんですが、緊急雇用事業と重点分野雇用創造事業、それから地域人材育成事業、あとそれからふるさと雇用再生特別基金事業、これで全部合わせて160事業442人の雇用があるというふうに、議会のほうではたしかそのような形になっていたかなというふうに思っているんですが、これらの雇用創出が予算化されているわけです。先日沿岸に行って向こうの方のお話を聞いたら、沿岸の市町村では緊急雇用は短期就労なため、余り働き口として人気がないんだと、敬遠される傾向があって、そして募集した人員が埋まらないというふうなお話をちょろっと聞いたんです。盛岡では、これらの事業についてはどのくらい就労されているのか、そういうことに関してちょっとお教えいただければなというふうに思います。

あわせて、これらの事業が盛岡の景気に及ぼした影響とありますが、簡単な総括をお聞かせいただければ。

あともう一つ、来年度以降どうなるかも教えてください。

商工観光部長（大志田和彦君） 議長。

議長（村田 芳三君） 大志田商工観光部長。

商工観光部長（大志田和彦君） お答えいたします。

沿岸地域ではなかなか集まらないと、一部報道等にもあったわけでございますが、盛岡市のほうの事業の状況ということにつきましては、一部事業の中で経験等を要件にされる場合というのがあった場合に若干応募が少ないということがああるというぐあいにお聞きしておりますが、一般的に応募者は多い状況ということでございまして、緊急雇用につきましては今議会のほうに御提案申し上げている分を含め、市内におけるトータルとして503人ほどの雇用に結びつくということになりますので、相応の雇用に対しての効果が生じているものというぐあいに思っております。

2点目の市の経済についてはどうかということですが、いずれ震災以降の厳しい状況の中、国のほうでも早い段階で緊急雇用の震災対応というのを打ち出していただいて、市のほうもそれに連動しながら予算を、6月補正あるいは今回の提案している補正というようなことでふやしてきておりますので、市内の経済への好影響も生じているものだろうというぐあいに思っております。

それから、来年度以降ということについてでございますが、ことしについては今お話ししたような状況でございますけれども、来年度につきましてはふるさと雇用再生特別基金事業、これについては今年度限りということになっておりますので、現在これの延長はするという情報は入っておらないところでございます。ただ、緊急雇用創出事業については、そのうちの重点分野雇用創出事業というものについては、来年度以降も事業を継続する方向と、開始するというぐあいに聞いております。いずれにしても今回国のほうでは、3次補正という中で復興関連の雇用対策事業ということで要求されておりますし、企業との連携の中で新たな雇用が生まれるだろうと。詳細についてはまだ私どものほうでもつかんでおりませんが、

そういう状況に認識しております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） リーマンショックの後にもお話をいたしました。私は今の景気動向、震災もありますし、やはりある程度公的資金を入れていかないと、なかなか民間の力だけでは立ち直れないのではないかと考えているんです。ぜひ来年のこれらの雇用創出事業に関しては、できるだけたくさんの御提案をしていただいて、たくさんの雇用枠を確保していただければなというふうに思っております。よろしくをお願いいたします。

次に、盛岡市の非正規雇用の方々の処遇についてお聞きしたいと思います。今非常に求職が厳しいのが障がい者、それからひとり親家庭、それから高齢者だというふうに、就労支援なさっている方々ほとんどがこのようにおっしゃいます。昨年の12月議会で、盛岡市は法定必要人員以上の実雇用を行っているという御報告がありました。議会で法定雇用に関しては何度も取り上げましたので、これに対しては大変評価をして、ぜひ続けていただきたいと思っています。それに加えて障がい者の非常勤職員名簿登録制度を活用した非常勤職員の任用を行っているというふうにお話しされましたが、現在の登録者数と雇用数を教えてください。

総務部長（菊地 昭夫君） 議長。

議長（村田 芳三君） 菊地総務部長。

総務部長（菊地 昭夫君） 現在の障がい者の非常勤職員名簿登録者数についてでございますけれども、10月現在ということで、身体障がい者が56人、精神障がい者が27人、合計で83人ということになってございます。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） この制度を利用して83人の中で雇われている方は何人かわかりますか。

総務部長（菊地 昭夫君） 議長。

議長（村田 芳三君） 菊地総務部長。

総務部長（菊地 昭夫君） 現在の……ちょっとお待ちください。済みません、現在任用中の非常勤職員障がい者、ちょっと今調べて、後ほどお答えしたいと思いますので、ちょっと時間いただきたいと存じます。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 非常勤職員は単年度契約で、更新は最大5回までと。これは多分障がい者の方でも同じだと思うんです。さきにお話ししましたように、短期の就労をですと来年も契約更新されるのかどうかと非常に不安になる。それは障がい者でも健常者でもそうだと思うんですが、これが結構大きいブレッシャーになるんじゃないかというふうに思うんですね。特に今障がいをお持ちの方は、例えば年度末とかに来年は更新しないよというふうに言われたとして、3カ月じゃやっぱり見つけられないと思うんです、今の雇用状況だと。それで、障がい者の働く場の確保ということで、この間随分努力されてきたわけ

ですから、障がい者のこの制度に限って単年度契約を複数年度に切りかえていただきたいなと私は考えているんですが、お考えをお聞かせいただけませんかでしょうか。

総務部長（菊地 昭夫君） 議長。

議長（村田 芳三君） 菊地総務部長。

総務部長（菊地 昭夫君） その前に先ほどの非常勤の現在の任用者数でございます。大変失礼いたしました。現在の非常勤で障がい者の方の雇用数が実人員で20人というふうになってございます。

それから、雇用期間の関係でございますけれども、基本的には非常勤ないし臨時職員というのは、臨時的な職というような補助的な職、臨時的な職というような位置づけでございますので、定数職員と違って予算に伴って設置する職という形になります。したがって、基本的には最長で1年と、その年度ということで、任用期間についてはそれぞれ雇用する際に勤務条件として通知しているわけですが、実際問題として3年なり5年なりと、最長5年というような取り扱いもしております。したがって、その5年が切れる前、またはその任用を継続できない場合、こういった場合は確かに今お話ありましたとおり、次からのこともございますので、なるべく早目に、早い段階でお伝えできるような、そういうふうな取り扱いにしていきたいと思います。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） なるべく早くであると、やはり先ほどもお話ししましたように、特に障がいをお持ちの方はただでさえ就労に関してハンディがある。それでお願いをしたことであります。ぜひ早目に通知をするということはもちろんのこと、少しその制度をよりよい方向にというか、御検討いただければと思います。

次に、放射線量検査についてお聞きします。まず調査の結果についてなんですが、たくさんの方が質問されましたので、空間放射線量の調査結果については繰り返しをしません。教育施設などを中心に計測して、放射線量が高い場所は除染をしたと、それから今後も計測は続けていくということで了解をいたしました。また、市民からの調査依頼に関しては個別では受けずに、自治会単位などまとまった形で勉強会も含めて行っていくということも理解をいたしました。それを踏まえてお聞きするんですが、市民から測定器の貸し出しの申し込みがあった場合、どのようなお考えをお聞きしたいです。

環境部長（千葉 芳幸君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉環境部長。

環境部長（千葉 芳幸君） 各個人の方々から貸してくれというふうにあった場合どうするかということについて、現在いろいろ検討しております。できる限りいずれまとまった自治会等、町内会等、そういう単位で、実際その機器が現在岩手県の環境保健研究センターからお借りしてうちの職員がはかっておりますが、高額精密機器ですので非常にデリケートな部分がある先端についておりまして、そこを損傷すると全くその機械が使えなくなると、そういうこともございまして、できれば我々のほうで用意した職員で行くような形にしたいと、そう考えております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 了解をいたしました。

今それこそ毎日ニュースを見ていれば、ホットスポット見つけたというニュースが結構あちこちで出てきます。全国的に放射線量の調査を行っている団体も個人もたくさんいらっしゃるんだと思うんですよね。今の岩手県内、盛岡市内でも幾つかの団体や個人が測定器を持っていらっしゃいます。あとそれから、実際に定点で計測をなさっている方もいらっしゃいます。盛岡市としてはその方々に呼びかけて、情報提供であるとか、あとそれから測定器、もし足りない場合ですね、貸し出しも含めて一緒に協力をして測定をやっていくというようなお考えはございませんでしょうか。

環境部長（千葉 芳幸君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉環境部長。

環境部長（千葉 芳幸君） お答えいたします。

いずれ測定機器にもいろんなタイプがございまして、いろんなその方々から情報をいただいたりもしております。現在、今まで266カ所と、それからその公園についても41カ所、北地区を中心に測定が終わりました。ここにつきましては非常に低い数値でございまして、そのすべてについて現在マップに落としておりました、それから国のほうで飛行機で測定しているものと合わせたりして、高い地点を中心に、その辺で例えば側溝汚泥等、あるいは公園の芝とか、自宅の雨どいの下とか、そういうお話があれば我々のほうで行って確認するとか、そういう形での連携はとってまいりたいと思っております。数十万単位する機械で、先ほど申しましたように、精度の高いものと、国、県で使っているものと同じというレベルでやっておりますが、現実に通報があった中で行ってみましたところ、一部目安を超える数値も出たということもございまして、その辺は情報いただきながら、なるべくこちらから出向いて行って測定するという形をとりたいと思っております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） ということはやはり高いか低いかというか、その測定器によって、ばらつきと
うかによって、例えばここは高いんじゃないかというような通報に関しては、要するに受け入れて、それに関しては一緒に計測をしたりなんなりしていくというふうに取り扱ってよろしいですか。

環境部長（千葉 芳幸君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉環境部長。

環境部長（千葉 芳幸君） そうしながら、その際、例えばその数値によってですが、除染の方法とか、そういうこともお邪魔してお話し合いしていきたいと、そう考えております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 6月議会でもお話ししましたが、今一番私が気にしているのは内部被曝の問題なんです。放射線から影響を受けないようにするためには、できるだけ離れるとか、あと間に遮へい物を、例えば上に土をかぶせるとか、そういうお話を先日部長されましたけれども、そういう方法をとるわけなんです、鼻とか口から入って体の中にどこかにべたつくっついてしまった場合は逃げられないわけですよ。常に被曝をその場所で行っているような、それも近い場所で行っているような形になりますから、長

期間にわたってDNAが傷ついていくということになります。最近のマスコミ報道等で内部被曝の危険性については多くの方に知られつつありますが、被曝の影響を大きく受ける若年層ほど正確な知識を知らない傾向があるんじゃないかと考えています。放射性物質から身を守るための啓蒙とか教育が必要だと考えます。例えば禁煙教育というのが非常に大きい成果を上げたわけですよね。あのような形でやっていくべきだと思うんですが、お考えをお聞かせください。

環境部長（千葉 芳幸君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉環境部長。

環境部長（千葉 芳幸君） お答えいたします。

確かに、例えばいろいろ放射性物質でありまして、その物質自体が例えば焼却灰とか汚泥の中にあつたとしても、人体に与える放射線がそこから放出されているかと申しますと、そこはその測定してみないとわからないということで、現実に市の施設でも上下水道局、それからクリーンセンター、_____センターではある程度の放射線量を持った、ベクレルではかれる分については出ておりますが、そこから人体に影響ある放射線量は現在のところほとんど出ていないと。その辺の性質も含めて、非常に複雑多岐にわたるそれぞれの性質がございますので、ホームページ等にも掲載しておりますが、国、県のほうにもわかりやすい情報を適時的確に情報をお願いしてまいりましたけれども、今までのいろいろな調査、そういうものも含めて、市民の皆さんにまずわかりやすく、どういうものに対してはどう対応すればいいか、内部被曝受けないためにどういう時点でマスクとかそういう手当てをすればよいかについては、早々に検討した上で周知できるようにしたいと、そう考えております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 将来的には学校などでも教えるというふうに考えてよろしいでしょうか。

それから、今ちょうど下水道の話を経理部長お話しされましたけれども、クリーンセンターですとか、下水道とか、要するにちょっと放射性物質が堆積しているかなと疑われる場所で仕事をする市職員に対して、被曝を避けるための注意喚起など、あとそれからお仕事する際のルールですとか、そういうのに関してはどうなっているかを2つほど伺います。

環境部長（千葉 芳幸君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉環境部長。

環境部長（千葉 芳幸君） では、上下水道、クリーンセンターのほうについては私のほうから。

従事している職員については、非常に閉鎖的な場所でやっているケースもありますので、その場所では放射線量の測定はしてございます。その上で、その情報を職員に伝えて情報共有して研究的なことをしながら、マスク、ヘルメット、手袋、それから長靴については厳重に注意しながら作業をしております。現実に放射性物質を有する汚泥、焼却灰については、定期的に測定をしております。そのほかに先ほど申しましたように、閉塞的な場所でやる場合には放射線量も測定していると。その上で情報共有して学習会しながら、作業についてはマスク、手袋、長靴などそういうもので対応してございます。

上下水道部長（平野耕一郎君） 議長。

議長（村田 芳三君） 平野上下水道部長。

上下水道部長（平野耕一郎君） 上下水汚泥の処理につきまして、ただいま場内で保管しているという状況でございますが、その搬出等の作業に当たりましては、環境部と同様、手袋、マスク、それから長靴等の着用を義務づけておりますし、安全性委員会としてはその辺は組織として対応しているという状況でございます。

教育長（千葉 仁一君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉教育長。

教育長（千葉 仁一君） 内部被曝等についての学校における子供たちの指導についてであります。前にもお話し申し上げましたけれども、今回の放射線の問題につきまして、各学校に対する指導はもちろんのこと、学校を通しながら保護者の皆様にも放射線、放射能に対する問題について、被曝を少なくする方法とか、あるいは放射線量が基準値よりも高い場合には、例えば外での活動を控えるとか、あるいは肌を露出しないようにするとかというような指導を行っております。

また、放射能、放射線問題について教員の知識も十分ではないという状況でございますので、これは国のほうでは放射能に関する副読本等を作成しております。間もなく各学校に行くようにするというところでございますし、あるいは県の教育委員会等も教員を対象に放射線問題に対する研修会等も、これも実施するということとしております。さらには中学校の学習指導要領でございますが、小学校はことしから新しい指導要領が全面実施になっておりますし、来年度からは中学校が全面実施となります。その来年度の中学校の理科において、放射線についても扱うこととなっております。今回こういうことがありましたから、その放射線について理科担当の教師が指導するわけなんです。今回の問題等も含めて理科の教師の指導力を高めるということから、この面での研修も充実してまいりたいと存じております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 確かに情報が難しいかと思いますが、ぜひ努力していただきたいというふうに思います。

次に、食品の調査と結果の公表について伺います。こちらは大分質問がありましたので、風評被害を防ぐためには小まめな食品調査が必要であるということは先ほどお話しも聞きましたので、ちょっとその公開の仕方、調査結果の公開の仕方についてまず伺いたいと思います。今品目と汚染度の細かい調査を必要としている消費者って大変多いんです。自分で計算されている方もいらっしゃいます。

それで、摂取量が多い米だとかというのは、暫定基準値内であっても、やはり高いと蓄積するのがたくさん蓄積するんじゃないかということで、今調査した品目の数値をすべて公開なさっているかと思えます。盛岡市のホームページで野菜と水と、それから空間線量に関して、ぱっと見られるようになっております。まず1つは、今後もこのように詳細な公開をしていただきたいんですが、変更等の予定がありますかということ。あともう一つは、国が行っている水産物に関する調査が盛岡のホームページから見られないんですよ。これをワンストップで見られるようにはできないものでしょうか。もしくはリンクを張っていただけませんか。

農林部長（丸山 久春君） 議長。

議長（村田 芳三君） 丸山農林部長。

農林部長（丸山 久春君） お答えします。

まず、ホームページから国の水産物のほうに入っていけないという御質問でしたけれども、私は入っていけるつもりでございましたけれども、もし入っていけないとすれば張りつけた形をとりたいと思います。

それから、食材の多く食べるもの、少なく食べる、少なくというよりも、多く食べる米とかの検査の関係についてでございますけれども、いずれ基準そのものが市とかで決めているものじゃないものですから、国のほうで、あるいはそれが県に流れてきてというふうなことです。私どもとすれば検査した結果をそのまま素直に公表しているというふうな状況でございます。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） あと、もう一つ伺いたいのは、基準値が暫定のまま半年以上が過ぎているわけなんです。これについて国の動き等があればお知らせください。

保健福祉部長（扇田 竜二君） 議長。

議長（村田 芳三君） 扇田保健福祉部長。

保健福祉部長（扇田 竜二君） 今の食品の暫定規制値があるわけでございますけれども、これにつきましては7月の末に食品安全委員会のほうからは、生涯にわたる被曝線量の限度を100ミリシーベルトにすると、そして子供は大人よりも放射性物質の影響を受けやすい等の新たな見解が示されております。それを受けて今厚生労働省では、暫定規制値、これを今の食品摂取の実態を踏まえたものに充実させたいということと、乳幼児食品について新たな規制値を設けることについて今検討を始めているということで一部情報いただいておりますので、その辺については国の動向を注視していきたいというふうに思っております。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 最後に、給食食材についてお聞きします。学校給食及び保育園等の給食に利用する食材について、どのような基準で考えていらっしゃるかを教えていただきたいです。

教育長（千葉 仁一君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉教育長。

教育長（千葉 仁一君） 学校給食に関しましてお答えいたします。

現在流通しているものでございますが、国や地方自治体による農作物等の安全確認等の調査をされると、もしくは生産、流通段階での検査体制により、放射性物質に関する暫定規制値を超えた一部の農作物等は出荷制限されておりますということで、基本的にはそういう基準値を超えたものは流通していないというふうにとらえておまして、現在市場に流通して一般に販売されている食材は暫定基準値以下というふうにとらえておまして、これらの食材を学校給食の食材として使用しているというのが現状でございます。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 12日から横浜市で給食食材の放射能汚染調査を始められたんです。次の日の13

日に使う予定だった干シイタケから350ベクレル検出いたしました。結果的にそのシイタケはその日は使わないことにしたんだそうです。確かに基準値以内のものであります。ただ、今まででも給食は、例えば添加物を使わない、タール色素とか入っていますよね、私も食べますし、普通に売っています。でも、そういうものは使わないと。それから、残留農薬も基準値内であってもできる限り少ないようなものを選ぼうというような形で、子供たちにはやはりより安全なものを食べさせようという考えで取り組んできたかと思うんです。ですから、今回の放射性物質に関しても、できる限り少ないようにというふうに考えるのが流れからいって筋ではないかと私は思うんです。

まず一つお聞きしたいのは、盛岡では検査の予定はございませんか。

教育長（千葉 仁一君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉教育長。

教育長（千葉 仁一君） 現在の時点では調査については考えてございません。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） 今々すぐというのはやはり難しいと思います。私の知っている方で産直やっている方なのですが、検査機械を9月でしたかね、注文をしたら、届くのが1月とか2月とかになるというお話でしたので、今すぐやれということではございません。ただ、最終的には私は、ベラルーシ、チェルノブイリの隣のベラルーシで行っているように、学校単位に測定器を置くのが一番いいんじゃないかなというふうに思っています。多分私だけではなくて、私の子供が死ぬころでもまだ4分の1に、セシウム137って4分の1にならないと思うんですよね、今放出しちゃった量の。であれば、やはりそういう形にしていけばいいと思うんですけれども、それまでの過程の中で流通しているものすべてを無頓着に使っていくのに対しては、私はすごいひっかかりと、あと怖いなというふうに思います。先ほどの干シイタケじゃないですけれども、やはり網目から落ちてくるものがある。

それで、学校給食に関しては一定の基準をつくって対処するべきではないかなというふうに考えています。その基準を検討するために給食食材について、保護者も含めて一緒に考える、審議会でも懇話会でも名前はどうでもいいんですが、そういう組織というか、グループというか、そういう機関をつくっていただけないかなというふうに考えています。方向性で結構ですでお考えをお聞かせください。

教育長（千葉 仁一君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉教育長。

教育長（千葉 仁一君） 給食につきまして大変御心配されているということ、全く私も同感でございますし、私も何とか安全な、安全が確認されたものをということで、本当に放射能が入っていないと、放射線がないというものを実証できればと思っておりますが、実際いろいろ測定していたりすると見ると、最初私もその食品を、例えばキャベツならキャベツを持ってきて機械のところへ置けば、これは放射線が出ているとか、出ていないとか、オーケー、これ出ていないから食材という形の検査かなと思っていましたら全く違ひまして、放射線が食材に入っているかどうか見るためには、すりつぶして、しかも400ccぐらいの量にしないと正確なものが出てこない。しかも、すりつぶしてしまいますから、これは安全だと確認しても、それは食材に出せないわけです、検査に使っただけですから。実際使うのはそのグルー

プの中にあるものは大丈夫だということで使うということですから、これは確かにはないというものをそのまま食材に使うということではできないことがわかりましたし、それから横浜の件ですけれども、横浜市で食材の検査を始めたということで、教育委員会でも情報収集しました。344校、単独の調理校、小学校ですね、が横浜市にあるそうですが、毎日1校につき食材の検査を前の日に行っているそうなんです。全部で17品目ですから、1日分の食材、1食分の食材を検査すると50万ぐらいかかるということだそうですが、しかもこれ前の日に検査して、検査結果わかるのが翌日ということですので、前の日に検査しているのと同じ仲間の食材をその学校で使っていて、調査結果がわかるのはその次の日ですから、学校に連絡して、こういうことだそうですね、もし基準値を超えたりした場合には、各校では調理をやめるか、あるいは喫食、食べるのを中止するという事なんですね。そうしたらその場合のお昼は子供たちどうするのかという疑問あったんですが、そこまだ確認しておりませんが、いずれというような状況だということでございます。

それで、保護者の方のいろいろな御意見、御心配も私もあるということは十分承知しておりますが、皆さんと一緒に集まって検討するのも、これはもちろん現在も給食の検討委員会等、調理場あるいは各学校でもありますし、保健委員会等も通しまして子供たちの食の安全を含めて健康全体に対して意見交換する場はどの学校でも設けておりますので、当然その中でもいろいろ話題にされたりすることがあると思います。ただ、そういう方々にお集まりいただいて検討しても、確固たるはっきりした基準でもないということがございますので、今の段階ではそういうことはまだ考えておりませんが、いずれ状況に応じて検討してまいりたいと存じます。

16番（伊勢 志穂君） 議長。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さん。

16番（伊勢 志穂君） リスクを回避するという考え方に基づいて、保護者から意見を聞くべきではないかというふうに考えているんです。現段階ではまだということですが、今ある審議会等もぜひそういう形で対処していただかないと、やはり後からいろいろ問題が出てしまったときに、非常に失望感だとか、行政に対する不信感を植えつける問題だというふうに私は考えておりますので、前向きな検討をお願いして質問を終わります。

教育長（千葉 仁一君） 議長。

議長（村田 芳三君） 千葉教育長。

教育長（千葉 仁一君） そういうことも含めまして、全体の状況を見ながら検討してまいりたいと存じます。

議長（村田 芳三君） 16番伊勢志穂さんの質問を終わります。

この際、暫時休憩します。

午後2時34分休憩

午後3時再開

副議長（佐々木信一君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問を行います。1番守谷祐志君。